

町小だより

令和7年
4月25日
No. 696
御免町小学校

ふるさとを愛する子どもたちに

校長 土田 利康

残雪がまぶしく輝く雄大な飯豊連峰。日本海まで続く加治川の桜の香り。長く浸かれない雪解け水の痺れる冷たさ。甲高くせわしないヒバリのさえずり。ウルイやコゴミなど大人になって分かった山菜の美味。ふるさと北新の春は、視覚、嗅覚、触覚、聴覚、そして味覚を刺激します。

聖籠町で生まれ育った私は、山があり川があり海があり、そして人情あふれるこの新発田・北蒲原の地に誇りをもち、愛着をもっています。ふるさとでの豊かな体験や人との出会いをとおした楽しい思い出は、生きる糧となっています。

さて、目の前にいる子どもたちの未来は、AIの発達などにより、想像もつかない変化を遂げると予測されています。グローバル化にも拍車が掛かり、様々な国や地域の人とのつながりも出てくるでしょう。そのような社会になるからこそ子どもたちには、ふるさとへの思いを大切にしてほしいと考えています。自分のふるさとのよさを見付け、自覚し、誇りをもつことが、これからの多様化する生活の「土台」となるからです。また、相手のふるさとをも大切にする心が育つからです。

しかし、郷土愛は教え込んで育つものではありません。子どもたちが「ひと」「もの」「こと」と繰り返し出会い、そのよさを見付けて価値を感じるまでには、時間が掛かります。せわしい昨今ではありますが、子どもたちの感性を、学びを、成長をじっくりと見守っていきたいと思います。

今年度、御免町小学校では、「郷土愛の育成」を教育活動の中心に据え、四つの柱で学校経営を進めていきます。様々な面でお世話になりますが、よろしくお願ひします。

1 ふるさとを愛する子どもたちの育成

御免町小学校区をはじめ、新発田の風土、歴史、自然や文化を調べ、この地で生活する様々な人と出会いながら、「町小ならではの郷土愛育成」を進めていきます。



2 お互いに認め合い、助け合う職員集団の構築

苦手なことがない人はいません。だから声を出し、弱みを知らせて助け合うことが必要です。弱みを出すのは勇気が要りますが、一人一人の子どもに寄り添った教育活動が進められるよう、まずは職員同士が認め合い、助け合う支持的風土の醸成に努めます。

3 地域との連携・協働

学校教育は、地域との連携・協働なくしては成立しません。様々な場面で御協力をお願いすることがありますが、お力添えをお願いします。

4 「主体的・対話的で深い学び」の推進

国は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推し進めています。「一律一斉」「教師主導」から脱却し、子ども自らが課題をもち解決していく学習を大事にしています。